

低料金でバックアップ

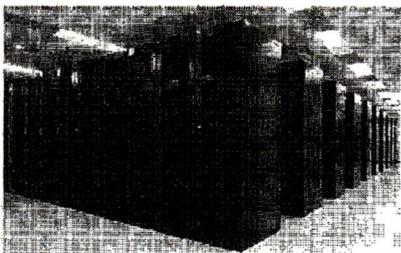
重要データ 札幌「疎開」を

北海道電力子会社の、ほくでん情報テクノロジ（札幌市、佐藤佳孝社長）は首都圏などの中小企業向けに、札幌市の拠点で重要データを低料金で自動的にバックアップするシステムを開発し

北電子会社

た。十一月から試験運用し、二〇〇八年春にもサービスを始め、企業の内部統制ルール（日本版SOX法）導入を〇八年度に控え、災害などに備えたデータ保護の動きが強まると判断した。

首都圏中小向け 災害にえ



サービス名は「イー少ない」とされる。メインXセキユアバックアップのデータ拠点が災害など「サービス」。札幌市内で機能不全になった場合同社が運営するデータセンターを活用する。札幌市は他の大都市に比べ、大地震の発生確率や台風など自然災害のリスクが

は暗号化して札幌に転送する。企業側が転送する業務データを選び、日時を指定すると、夜間など定期的に自動で札幌に転送される。誤って

東京から約1000キロ離れ、災害リスクが少ない地の利を生かす（札幌市内のデータセンター）

データを消去した際の復元にも活用できる。システム開発のアカタマ（札幌市、三原孝義社長）が開発した、データをパソコン上で短時間で暗号化する技術を活用。二回目以降に送るのは更新データのみだが、上書させずに転送の度にデータ

データを完全保存する。転送が完了するたびに企業側のデータ管理担当者（メー）が開発した、データの記録にもなる。容量百ギガのプランで初期費用と月利用料がそれぞれ七万三千五百円。二百ギガの場合はそれぞれ九万四千五百円と、中

小企業を対象に低料金でサービスを提供する。すでに教社から問い合わせがあり、首都圏企業を中心に初年度十社以上からの受注を旨とする。小企業は経営データのバックアップ体制も不十分

来年四月以降の事業年度から適用されれば、上場企業だけでなく、その取引先に対してもデータの厳格管理を求める動きが強まる見通し。これら中